

■北海学園大（2020年リーグ戦優勝）

最高気温が32.6度まで上がり、札幌の連続真夏日が12日目となった8月1日。札幌市清田区の北海学園大清田グラウンドのラグビー場で北海学園大アメリカンフットボール部の練習が始まった。開始時の午前9時で28.9度。佐藤玲太主将（4年、札幌光星高）ら選手39人が短パンとTシャツ姿でウォームアップを始めたが、見る間に汗が流れ落ちる。コロナ対策で続ける毎朝の検温と消毒に加え、こまめな給水タイムも22人のスタッフの重要な役割だ。グラウンド横には、熱中症対策で冷水を張った簡易プールも用意された。

体がほぐれると、ポジション別の練習が始まった。ヘルメットとショルダーを付けるが、短パンのままの選手も多い。伝統のパス攻撃を担うQBとWRのユニットは早速パスコースの確認を始めた。昨年の道リーグ制覇と東北大を下したパインボウル初優勝でも威力を発揮したパス攻撃。昨年のリーグMVPのQB小笠原文丈瑠（3年、北海高）が休部中のため、エースナンバーの2番を背負うQB河合祐輔（3年、札幌第一高）が、切れ味の良いボールを次々に投じる。エースレシーバーのWR佐藤玲太との呼吸もピッタリだ。

攻撃を支えるOLのユニットではブロックの練習に熱がこもってきた。4年生中心だった昨年の強力ラインは一気に若返った。昨年も先発した新4年生のG近藤巧実（札幌第一高）をリーダーに、力強い当たりとフットワーク、上腕の使い方などを何度も磨き上げている。近藤は「去年よりも良い完成形を目指している。試合を重ねるごとに強くなる」と自信たっぷりだ。

5月16日から6月20日までの道の緊急事態宣言発令によってアメフト部も活動が中断され、全体練習を再開したのは7月17日から。制約が多かった新入生勧誘も、何とか選手12人とスタッフ9人を新たな仲間に加えた。平日は個人練習、土、日曜日の全体練習で急ピッチでチーム作りを進めてきた。8月8日からの夏休み期間中は2部練習の日も4日間設けて、じっくりとチーム力を高める予定だ。

昨年は全日本学生選手権が中止になり、甲子園ボウル挑戦の道を絶たれた北海道だが、北海学園大はパインボウル勝者として関東1部の慶応大と対戦する機会を得た。試合は大敗したが、それだけに今季にける意気込みは鋭い。佐藤玲太主将は「今はまだチーム作りの第1Q。今年は試合を含めて強くなる」と力を込める。各ポジションの世代交代も踏まえ「去年対戦した関東のレベルを、いかに下級生に伝えるか。今年がカギになる」と新たな伝統作りへの決意も口にした。

